

当院で乳がん治療を受けておられる方へ

国立病院機構九州がんセンター乳腺科では現在、下記の調査研究に参加しております。

研究テーマ：乳癌細胞における E-cadherin/vimentin 共発現の意義に関する研究

参加施設：九州大学病院

癌の浸潤・転移は、もともとの腫瘍巣から細胞が離れて移動することによって生じます。この過程において癌細胞は、もともと持っている上皮系の性質から新たに間葉系細胞の性質へと変化する、上皮間葉系移行 (Epithelial-mesenchymal-transition; EMT) と呼ばれる現象が起こります。また、転移成立においては逆の現象である間葉系上皮移行 (Mesenchymal-epithelial-transition; MET) により二次腫瘍巣が形成されます。EMT の過程で「partial EMT」と呼ばれる状態においては、上皮系のタンパク質である E-cadherin と、間葉系のタンパク質である vimentin の両方が同一腫瘍細胞内に存在しています。partial EMT の状態の腫瘍細胞は脈管侵襲しやすく、高い転移能を有するため、このような状態の乳癌は経過が良くないことが知られています。さらに、EMT の過程においては、様々な薬剤に対する耐性の獲得や、免疫抑制、癌幹細胞化に関連するとの報告があり、hybrid phenotype についての研究は、新たな治療標的化に繋がる可能性があります。本研究は乳癌原発巣とリンパ節および遠隔転移巣の切除や生検を行った患者さんを対象に、乳癌の組織と、リンパ節転移巣、遠隔転移巣における E-cadherin と vimentin の発現状況を明らかにすることを目的とします。

この研究は承認～2025年6月まで行われます。どのような治療がなされどのような効果があったのかのデータを収集します。手術により切除された組織の一部と、カルテから収集できる情報を用いて分析しますので、この研究に伴い患者さんから新たに組織や血液を採取したり、その他の検査を受けてもらうなど、負担をお願いすることはありません。

●対象となる患者さん

九州がんセンターおよび九州大学病院消化器・総合外科にて、乳癌と診断され 1994 年～2019 年に原発巣・リンパ節に対する手術および転移巣に対する手術もしくは生検が行われた方。

●利用するカルテ情報

- 1) 初発時の状況
- 2) 乳がんと診断された時の状況 (病理診断、診断日、全身状態など)
- 3) 乳がんと診断された後の状況 (治療方法、合併症、予後など)

この研究は、当院の倫理委員会で承認されています。お名前、住所、電話番号、カルテ番号などあなたの個人情報が特定できないように匿名化した情報を研究に使用しますのでプライバシーは厳重に守られます。また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、あなたを特定できる情報を使用することはありません。

何かご不明な点がある方や、より詳しくお聞きになりたい方は、担当医までお問い合わせください。また本研究への協力を賛同されない場合は、担当医に申し出てください。下記連絡先までご連絡ください。その場合はあなたのデータを研究に用いませぬ。

2022年1月

(当院お問合せ先) 国立病院機構九州がんセンター 乳腺科
研究責任者 徳永 えり子
TEL:092-541-3231 FAX:092-551-4585

〒811-1395 住所:福岡市南区野多目 3-1-1